



かいのき児童クラブ便り

子どもたちの豊かな学びのため



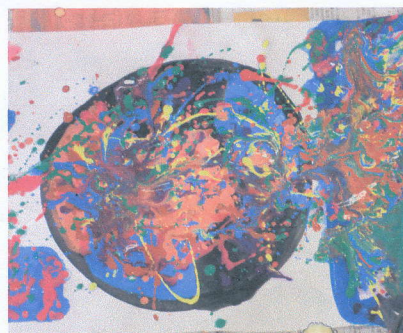
H26年度 夏 第2号

H26. 8. 6

「あぁ～おもしろかった!!」「また、あした!!」

カメリアーノさんの絵画教室

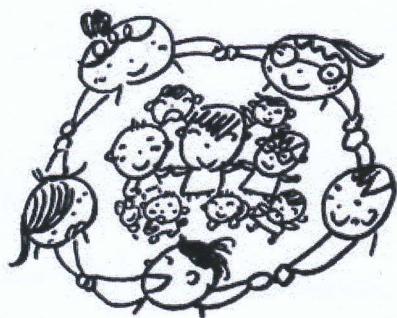
7月30日、ミツルカメリアーノさんとパートナーの宇吉さんが来られての絵画教室がありました。カメリアーノさんは、色で遊ぶこと、絵を描く楽しさを知る事、そうすることで感性が開き、また、楽しかったという経験が将来につながったという思いで、絵画教室をされています。2012年7月にも来られたことがあり、今回は2回目です。子ども達は1人1色ずつ色を牛乳パックに入れ、後は使いたい色は友達と交換しながら、新聞紙幅の部分を、思い思いに、創造力豊かに絵を描き、10メートル近くの巻物を4つ完成させました。



カメリアーノさんの略歴

1950年兵庫県うまれ。
鉛筆画家。子どものころから漫画や絵描くのが好きだった。デザイナーから絵本を作ったことがきっかけで、画家になる。

子どものせかい



クラブハウスのそばには、去年からあった土山と今年入れた土山が二つ。そこにシャベルがあればつい掘りたくなる！6、7人の男子が中心になり、どんどん掘り進み、穴の直径、深さはともに1メートル以上。「落ちたら上がれないから階段を作ろう」と階段も作りました。穴掘り仲間用のパスポート以外に「穴作りに興味をもってもらうために」と招待券を出すTくん。

そして、木の枝で弓矢や武器を作り、穴で“展示会”を開いた後、秘密基地となりました。仲間意識も芽生え合言葉を作り、時には山の裾まで野球のボールをおいかけてきた子に「合言葉を言え」とせまる場面も。

穴を掘れば今度は水を入れたい！「おーい、誰か手伝ってくれえ」と仲間に声をかけながら、汗びっしょりになって、バケツに入れた水を運ぶ男の子たち。ヒビの入ったポリバケツを山の上に固定し、割れ目から水を流し「自動になったあ！」と大喜び。水のたまった穴は「神水湖（じんすいこ）」と名づけ、この水がひくと、今度は穴の中はなぜか「神水寺（しんすいじ）」となり、水や花をおそなえしてちょっと神聖な場に……。お寺が荒らされないようにと、山の斜面には枯れ枝や石をたくさん突き刺して簡単に侵入できないように工夫。

遊びのおもしろさの追及のなかで、工夫を重ね、子どもの世界を創り出しています。



もめごと どう解決する？

もちろん、思い通りにいくことばかりではありません。土山の周りで戦いを始めたAくんとHくんたち。

「Aくんはお腹へって勝手にやめたのに、また勝手に入ってじゃましたり、しかけをこわしたりする」とHくん。Aくんは一旦やめて、また戻ってきたときに、受け入れてもらえず、いらいらしていたようです。指導員がそれぞれの思いを聞いているところに木の枝を振り回しながらやってきたYくん。Aくんに加勢するように「オレらぁ春休みに掘ったんよ。何で勝手に使うん！」

「夏休みになって掘ったのはオレらぁよ。神水寺のところはオレらぁが作ったんよ」

「ここはみんなのものだ！」「オレらぁが先に掘ってたんよ！」と、中々どちらも譲りません。どうなることかと思いましたが、ひとしきり思いを伝え合った後で、「それじゃあ、共同でやるけど、2つの山に分かれて使う。AとYたちはあっちの山。おれたちはこっちの山。相手がいいと言ったら手伝ってもよい」という4年Hくんのナイスアイデア！「それならいいよ」と、お互い折り合いをつけました。翌日は相談しながら2つの山の真ん中に通路を作り、一つの穴にお風呂のように仲間みんなで入り「うわあ～、あつい～！！」「涼しくなる方法考えよう！」とすっかり一つの山のようになっています。

夢中になって遊ぶ中で、仲間とのつながりも少しずつ築いています。



* 現在の神水寺の様子